捕獲等事業評価シート（シカ）

（岩手県環境生活部自然保護課）

評価シート（ニホンジカ）

STEP１　予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■　事業概要

事業実施地域	県内全域及び早池峰山周辺地域
事業主体	岩手県環境生活部自然保護課
事業実施期間	令和６年 10 月４日～令和７年３月 19 日
捕獲手法	銃及びわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	186,792,511 円（※）

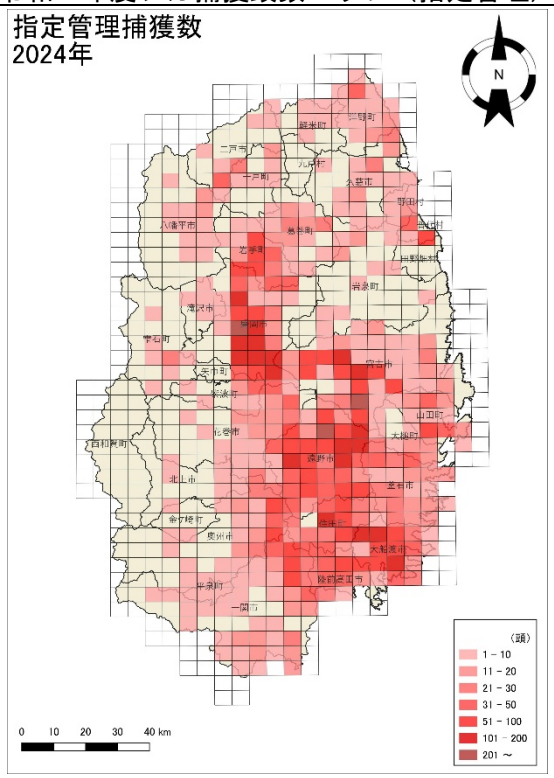
（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■　事業の評価

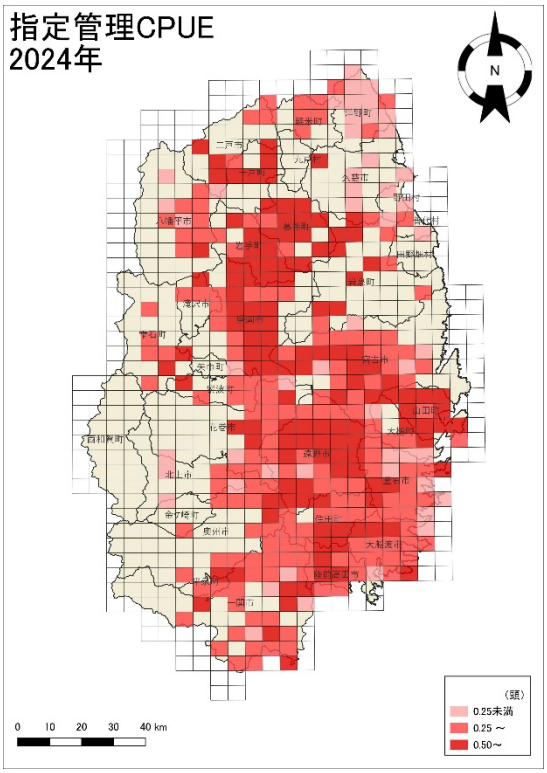
評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	10,000 頭	10,189 頭 くくりわな：2,527 頭 箱わな　　：　　1 頭 銃　　：7,661 頭	捕獲目標の達成率は 102%であった。
捕獲作業量	（昨年度実績） わな：80,256 基日 銃猟：延べ 17,495 人	わな：102,337 基日 銃猟：延べ 14,838 人	昨年度とほぼ同程度の努力量であった。
効率的な捕獲	（昨年度実績） わな：0.027 頭/基日 銃猟：0.53 頭/人日	わな：0.025 頭/基日 銃猟：0.52 頭/人日	昨年度とほぼ同程度の捕獲効率であった。
事業に要した人員数	23,000 人日	20,604 人日	昨年度に比べると減少した。わな捕獲の割合が増加したためと思われる。従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.495 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に記載したとおり、埋設又は搬出し焼却処分、自家消費。なお、全頭検査が可能な食肉処理加工施設へ搬入する場合は、利活用も可能とする。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・可能な限り非鉛製銃弾を使用 ・錯誤捕獲防止用わなを使用	・可能な限り非鉛製銃弾を使用 ・錯誤捕獲防止用わなを使用	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	オス 5,328　メス 6,167 成獣 10,147　幼獣 1,342 不明 6	オス 4,612　メス 5,577 成獣 9,435　幼獣 753 不明 1	オス、メスの割合は昨年度とほぼ同じ比率であった。

■　添付図面（５ｋｍメッシュ地図）

＜令和６年度シカ捕獲頭数マップ（指定管理）＞

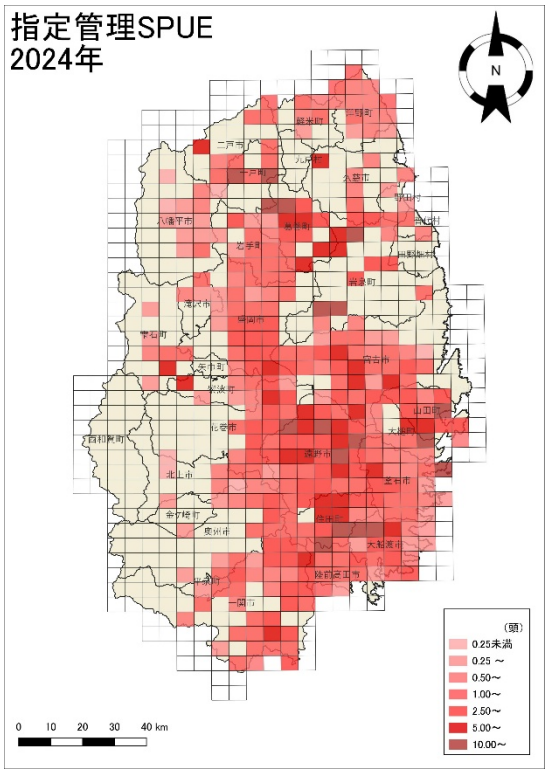


＜CPUE：捕獲効率＞



※CPUE＝捕獲数／のべ人日数

＜SPUE:目撃効率＞



※SPUE＝目撃数／のべ人日数

※「国土数値情報（行政区域データ）」（国土交通省）
（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-2018.html）を加工して作成

STEP２　捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■　事業実施地域

県内全域及び早池峰山周辺地域

■　出没（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	令和５年度糞塊調査結果　県内全域（平均）　18.8 個/km
事業実施後もしくは事業終盤・後半	令和６年度糞塊調査結果　県内全域（平均）　16.7 個/km
評価	令和５年度と比較して全県の糞塊密度は低減しているものの、令和４年度値(16.3 個/km)とは同水準となっている。

■　被害

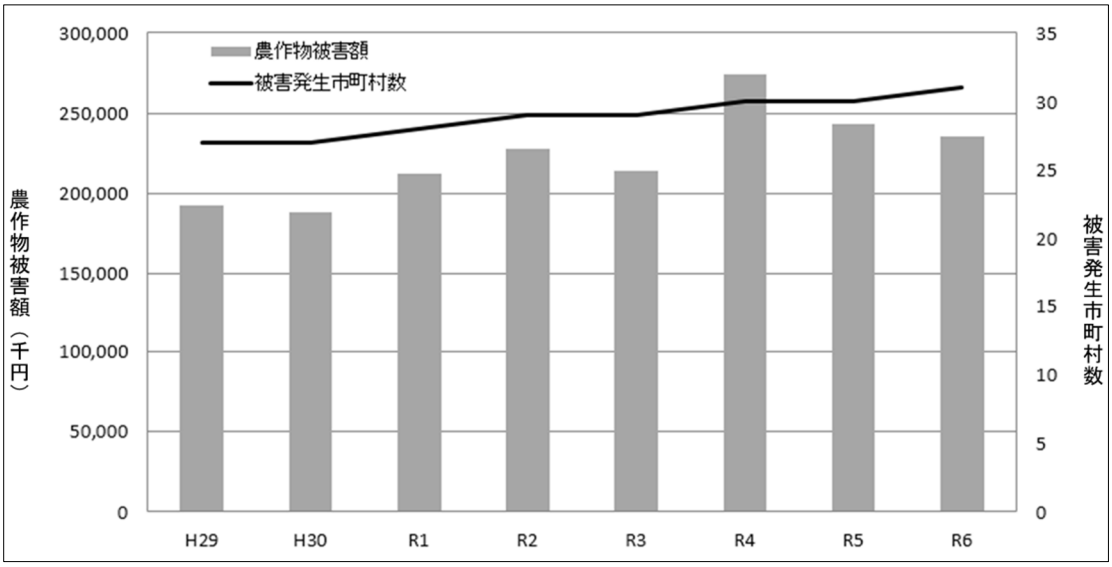
評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	農業被害額の把握はしているものの、指定管理捕獲による効果検証のための被害調査はこれまで行っていない。 なお、令和５年度の農業被害額は約２億 4,300 万円であった。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	同上 なお、令和６年度の農業被害額は約２億 3,600 万円であった。
評価	農業被害額としては前年度から約 700 万円減少した。 しかしながら有害捕獲や被害防止策を総合的に行った結果と推定され、指定管理捕獲による効果を図るには、別途、植生調査などでモニタリングを検討する必要がある。

■　添付図面

農作物被害額の推移（単位：千円）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	前年との差
被害発生市町村数	27	27	28	29	29	30	30	31	
農作物被害額	192,267	188,439	212,090	227,485	213,540	274,145	243,215	235,818	△7,397

※R6 は速報値



STEP３　評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■　捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP１・２の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評　価：目標 10,000 頭に対し 10,189 頭を捕獲し、目標達成率は 102%、前年度比では 89%（1,306 頭減）となった。
	改善点：糞塊調査結果に基づく相対密度は令和５年度からは減少しているものの、令和４年度と同程度の結果となっており、引き続き捕獲圧をかける必要がある。
【実施期間】	評　価：３月から 10 月に実施する有害捕獲との調整を図り、本事業の捕獲を 11 月から２月に実施した。 実施期間を棲み分けることにより、効率的に事業が実施できていることから、引き続き、従来の方針により実施していく。
	改善点：特になし。
【実施位置】	評　価：県内全域の他に、希少な高山植物の保護のため、早池峰山周辺地域（625 ㎢）について捕獲目標数（1,400 頭）を設定し、生息密度が高い北上山地南部だけでなく、生息範囲が拡がっている県央部及び県北部においても捕獲を実施した。 なお、早池峰山周辺地域（625 ㎢）では、968 頭を捕獲した。
	改善点：五葉山周辺地域だけでなく、県北部や早池峰山周辺地域の市町村でも農業被害や希少な高山植物の食害が継続していることから、引き続き捕獲を強化していく。
【捕獲手法】	評　価：わなと比べて捕獲効率が高い銃による捕獲は、約８割であり、捕獲効率は 0.52 頭／人日であった。
	改善点：比率が増えているわなによる捕獲を推進していく。
【捕獲コスト】	評　価：捕獲単価は令和５年度 17,999 円/頭、令和６年度 18,332 円/頭となっており、333 円の増となっている。単価が上昇した要因としては、人件費及び部材費のコストが上昇していることが理由と考えられる。
	改善点：特になし。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評　価：狩猟事故防止のため捕獲作業は２名以上で実施し、安全に配慮した体制で実施した。これにより、狩猟事故は発生していない。
	改善点：引き続き、安全管理規定の順守を徹底するとともに、適切な実施体制に努めるよう指導する。
【個体処分】	評　価：捕獲個体は自家消費または適切に埋設等を行った。
	改善点：引き続き、適切な個体処分を行うよう指導する。
【環境配慮】	評　価：可能な限り非鉛製銃弾や錯誤捕獲防止用わなを使用した。
	改善点：引き続き、環境配慮に努めた事業実施を指導する。
【安全管理】	評　価：実施計画及び安全管理規定に基づき、事故防止の徹底を図った結果、人身事故等の重大事故の発生はなかった。
	改善点：引き続き、安全管理規定の遵守を指導する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点　なし	
4. 全体評価 捕獲目標は継続して達成しているものの、糞塊調査結果に基づく相対密度は令和４年度と同程度の結果となっており、引き続き捕獲圧が必要な状況と解する。 一方で、有害捕獲との棲み分けのため、実施可能時期が限られることを踏まえると、10,000 頭の捕獲目標は妥当と考える。	

■　特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	第二種特定鳥獣管理計画では、個体数を半減させるため、全県で２万 5,000 頭捕獲することを目標としており、令和６年度は目標を上回る 27,485 頭を捕獲した。
寄与状況の評価	令和６年度の捕獲数 27,485 頭を、捕獲区分毎に分析すると以下のようになる。 ・広域捕獲 740 頭（2.7%） ・狩猟捕獲 685 頭（2.5%） ・本事業捕獲 10,189 頭（37%） ・有害捕獲 15,786 頭（57.5%） ・その他 85 頭（0.3%） 指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲数は前年度から減少しているものの、令和６年度の捕獲数のうち有害捕獲に次ぐ比率となっている。 また、実施時期についても有害捕獲（３月～10 月）と本事業（11 月～２月）は棲み分けており、年度を通して捕獲圧を継続するうえで欠かせないものと評価する。